

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「おもいうかべながら よもう」 教材名「くじらぐも（中川李枝子）」

2 単元の目標

かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使い、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する（(1)ウ・ク）。場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる（C(1)イ・エ）。言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使っている。 ((1)ウ) ②語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。((1)ク)	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ）	①進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習の見通しをもって、想像したことを音読や動作で表そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本教材は、体操をしている子どもたちと先生の前に、くじらの形をした大きな雲が現れ、みんなで雲に乗って空を旅する物語である。子どもたちや先生、くじらぐもの会話が長く、会話にはかぎ（「」）が使われているので、だれが言ったかを確かめながら、かぎの使い方を学ぶのに向いている（(1)ウ）。また、体操をする、とび上がる、空を進むなど、子どもたちの行動がはっきり書かれており、場面の様子に着目して行動を具体的に想像し、声や動作に表すことができる。学習指導要領第1学年及び第2学年のC(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」と、言語活動のC(2)イ「読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動」に合う。だれが何をしたかを確かめて読む経験（C(1)イ）を土台に、本単元では行動の様子まで想像して表す。この経験は、第2学年で登場人物の行動を想像しながら物語を読む学習につながる。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、動作化や音読は、叙述を確かめてから行う。どの言葉からその動きや声にしたのかを言わせ、遊びで終わらせない（C(1)エ）。次に、会話の文は、かぎの使い方と合わせて、だれが言ったのかを毎時間確かめる（(1)ウ）。そして、想像したことは吹き出しに書かせ、書くのが苦手な子は話して伝えてもよいことにする。単元の終わりの音読発表は、場面の様子や行動に合わせて読み方を工夫している物を「おおむね満足できる」状況、なぜそう読んだのかを叙述を挙げて言える物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画（全8時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○範読を聞き、好きな場面と、そのわけを話す。 ○学習の見通しをもつ（場面の様子を思い浮かべて、動作をつけて音読しよう）。	態①（行動観察）
	2	○場面を分け、だれが出てきて、何をしたかを確かめる。	思①（ノート・発言）
第2次	3	○会話の文を見付け、かぎ（「 」）が付いていることと、だれが言ったかを確かめる。 ○自分でかぎを使って、友達と話したことを文に書く。	知①（ノート）
	4	○くじらぐもが現れ、子どもたちと同じように体操をする場面を読み、子どもたちとくじらぐもの行動を想像して動作で表す。	
	5 （本 時）	○子どもたちがくじらぐもに乗る場面を読み、とび上がる子どもたちの行動を想像して、声や動作に表して音読する。	思②（吹き出し・行動観察）
	6	○くじらぐもに乗って空を進む場面を読み、子どもたちの様子と、見えた物を想像する。	思②（吹き出し）
	7	○学校に帰り、くじらぐもと別れる場面を読み、子どもたちの行動を想像して音読する。	知②（音読の観察）
第3次	8	○好きな場面を選んでグループで音読発表をし、聞いた感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。教室や学校図書館にある物語の本を紹介する。	知②（音読発表） 態①（振り返り）

6 本時の指導 (5/8)

(1) 本時の目標

子どもたちがくじらぐもに乗る場面の様子に着目して、とび上がる子どもたちの行動を具体的に想像し、想像したことを声や動作に表して音読できる。(C(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前の時間の場面を、動作をつけてみんなで音読する。 2 本時の問いをつかむ。 ○「子どもたちは、くじらぐもに乗れたでしょうか」 【めあて】子どもたちが くじらぐもに のる ところを、ようすを おもいうかべて よもう。 〈予想される児童の反応〉 ・のりたいて 言っ て いた。 ・のれたと おもう。 ・どうやって のったのかな。	・前の時間に書いた吹き出しを黒板の端に残しておく。 ・本時の場面の挿絵は使わず、言葉から思い浮かべることを先に伝える。
展開 (分)	3 先生の範読を聞き、一人で音読する。 4 子どもたちの行動を確かめる。 ○「子どもたちは、どうやって くじらぐもに のろうとしましたか」 5 とび上がる様子を想像する。 ○「はじめに とんだ ときと、あとで とんだ ときでは、どう ちがいますか」 ○「その とき、子どもたちは どんな 気持ちだったでしょう。どの ことばから おもいうかべましたか」 6 グループで役を分け (子どもたち・先生・くじらぐも)、動作をつけて音読する。 7 二つのグループの音読を見て、よかったところを言う。 〈予想される児童の反応〉 ・みんなで 手をつないで、わに なった。 ・かけごえを あわせて とんだ。 ・はじめは すこししか とべなかった。 ・くじらぐもが おうえんして くれた。 ・なんども とんで、だんだん たかく とべた。 ・かぜが ふいて、そらへ とんで いった。 ・もっと たかく とびたい。 ・くやしいけど、がんばろう。 ・そらに とんで、びっくりした。 ・のれて うれしい。	・行動を確かめる時は、だれが何をしたかに線を引かせてから答えさせる。 ・とんだ順に、黒板に子どもたちの行動を書いていく。 ・気持ちを言った子には「どの ことばから」と返し、行動を表す言葉に戻す。 ・会話の文は、かぎの所を指でなぞらせ、だれが言ったかを確かめてから声に出させる。 ・台詞や叙述は、使う教科書から先生が書き入れる。 ・動作が大きくなりすぎる時は、立つ場所と動いてよい広さを先に決めておく。 ・音読が苦手な子には、先生と一緒に読む役か、かけ声の所だけを読む役を選ばせる。 ・早く終わった子には、くじらぐもが言った言葉をどんな声で言ったらよいかを考えさせる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	8 くじらぐもに乗った時の子どもたちの言葉を想像して、吹き出しに書く。 9 振り返りを書く。 （型）「…の ところを、…の ように よみました」	・吹き出しが書けない子は、先生に話して伝えてもよいことにする。 ・振り返りは、どの言葉から声や動きを考えたかが入っていればよいことにする。 ・次の時間は、空を進む場面を読むことを伝える。 ◎思② 子どもたちがくじらぐもに乗る場面の様子に着目して、子どもたちの行動を具体的に想像している。（吹き出し・行動観察）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から。右端に日付・題名・めあて。その左に、とび上がる場面の子どもたちの行動を、とんだ順に右から左へ矢印でつないで書く。行動の下にそれぞれの時の子どもたちの吹き出し（子どもの言葉で）。くじらぐもの言葉は先生が教科書から書き入れ、かぎの部分の色チョークで囲む。中ほどから左に、音読の工夫（声の大きさ・速さ・動き）と、どの言葉からそうしたかを並べる。左端に振り返りの型。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

